

4章 質問紙調査結果の分析（竹内委員）

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

1. はじめに

今回は、生徒・学校・教員に対して実施された質問紙調査のうち、公立学校の調査データをもとに、特徴のある項目について分析を行った。生徒データに関しては、約 75% の対象者が CEFR の A1 レベルに集中しているため、レベル別の分析はあくまでも参考程度という前提で行われている。

2. 主な特徴

2.1 生徒質問紙調査から

- (1) 英語の学習が好きではないとの回答が半数を上回る。
- (2) 資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。
- (3) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。
- (4) 英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。
- (5) 生徒の自主的な英語学習時間が少ない。
- (6) 概要や要点をとらえる活動はある程度経験しているが、それをもとにして英語で議論したり書いたりする活動はあまり経験していない。

2.2 学校・教員質問紙調査から

- (1) 授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組が低調である。
- (2) 学習到達目標に関する記述文 (CAN-DO statements) の設定は進んでいる。
- (3) 技能の統合を意識した言語活動への取組に関して改善の余地がある。
- (4) 教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。
- (5) 教員自身が英語力を向上させるための努力を支援していく必要がある。

3. それぞれの分析

3.1 生徒質問紙調査から

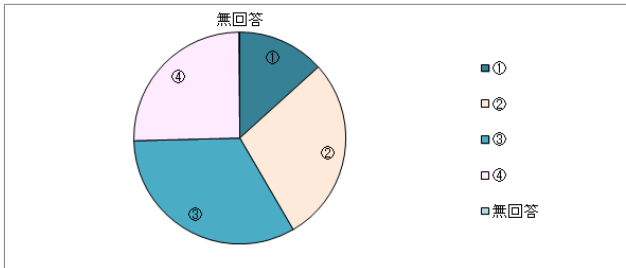
(1)英語の学習が好きではないとの回答が半数を上回る。

・No. 1 「英語学習への意識」

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	8,779	18,675	21,803	16,741	69	66,067
選択率	13.3%	28.3%	33.0%	25.3%	0.1%	100%



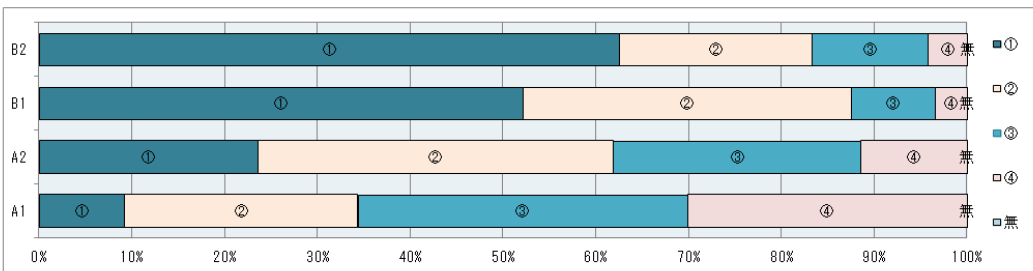
・No. 1 「英語学習への意識」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	15	5	3	1	0	24
	選択率	62.5%	20.8%	12.5%	4.2%	0.0%	100%
B1	回答数	400	271	70	25	1	767
	選択率	52.2%	35.3%	9.1%	3.3%	0.1%	100%
A2	回答数	3,570	5,805	4,058	1,704	8	15,145
	選択率	23.6%	38.3%	26.8%	11.3%	0.1%	100%
A1	回答数	4,368	11,854	16,779	14,187	41	47,229
	選択率	9.2%	25.1%	35.5%	30.0%	0.1%	100%



※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

生徒質問紙 No. 1「英語の学習は好きですか」との問いに対して、「どちらかといえば、そう思わない」(選択肢③)と「そう思わない」(選択肢④)の合計が58.3%となっている。この傾向は、A1 レベル(最も多くの生徒が含まれるレベル)において顕著となる傾向がある。過去の中学校における調査(ベネッセコーポレーション、2009年)などと比べてみると、中学生の英語嫌いの傾向は、そのまま高等学校にも引き継がれている可能性が高い。一方で、「そう思う」(選択肢①)と「どちらかといえば、そう思う」(選択肢②)の合計は41.6%になる。

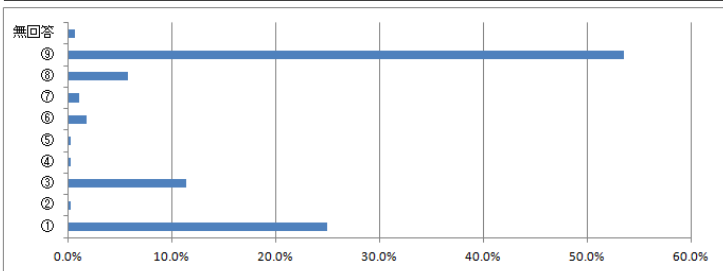
(2) 高校入学後に資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。

・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」

No.5 高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する試験を受験したことがありますか。
 受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑨を選んで下さい（複数回答可）。

①英検（実用英語技能検定）	②ケンブリッジ英検	③GTEC for STUDENTS	④TOEFL	⑤TOEFL Junior
⑥TOEIC	⑦TOEIC Bridge	⑧その他	⑨英語に関する試験を受験したことはない	

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
回答数	17,840	218	8,153	232	190	1,263	753	4,131	38,219	470	71,469
選択率	25.0%	0.3%	11.4%	0.3%	0.3%	1.8%	1.1%	5.8%	53.5%	0.7%	100%



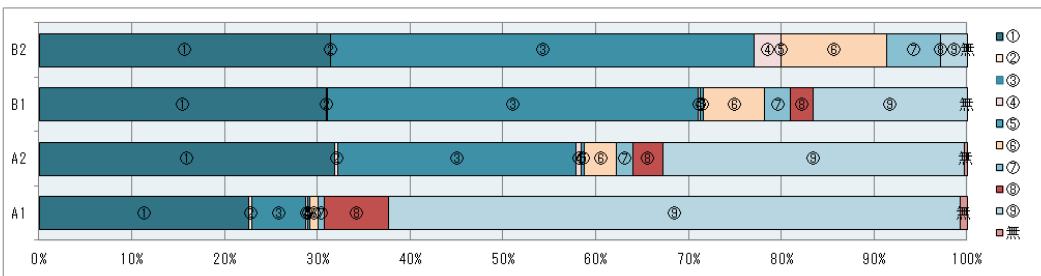
・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.5 高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する試験を受験したことがありますか。
 受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑨を選んで下さい（複数回答可）。

①英検（実用英語技能検定）	②ケンブリッジ英検	③GTEC for STUDENTS	④TOEFL	⑤TOEFL Junior
⑥TOEIC	⑦TOEIC Bridge	⑧その他	⑨英語に関する試験を受験したことはない	

OEFR	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
B2	回答数	11	0	16	1	0	4	2	0	1	0	35
	選択率	31.4%	0.0%	45.7%	2.9%	0.0%	11.4%	5.7%	0.0%	2.9%	0.0%	100%
B1	回答数	334	1	432	2	4	71	30	26	178	1	1,079
	選択率	31.0%	0.1%	40.0%	0.2%	0.4%	6.6%	2.8%	2.4%	16.5%	0.1%	100%
A2	回答数	5,726	49	4,617	86	76	619	326	577	5,827	52	17,955
	選択率	31.9%	0.3%	25.7%	0.5%	0.4%	3.4%	1.8%	3.2%	32.5%	0.3%	100%
A1	回答数	11,128	142	2,878	116	93	510	303	3,398	30,330	362	49,260
	選択率	22.6%	0.3%	5.8%	0.2%	0.2%	1.0%	0.6%	6.9%	61.6%	0.7%	100%



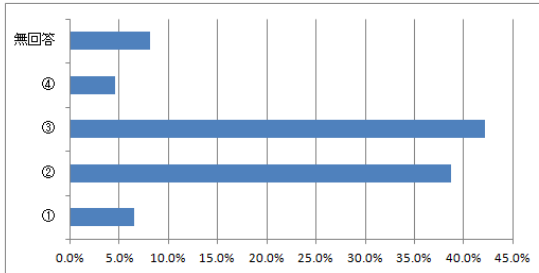
※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

・No. 6 「英語に関する資格・検定試験を受験したことがない理由」

No.6 (No.5で③と回答した方のみ) 受験したことがない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい(複数回答可)。

①受験しなかったが、その機会がなかった ②受験したいとは思わなかった(受験する必要性を感じなかった)
③自分の英語力に自信がない ④その他

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	2,959	17,651	19,224	2,078	3,673	45,585
選択率	6.5%	38.7%	42.2%	4.6%	8.1%	100%



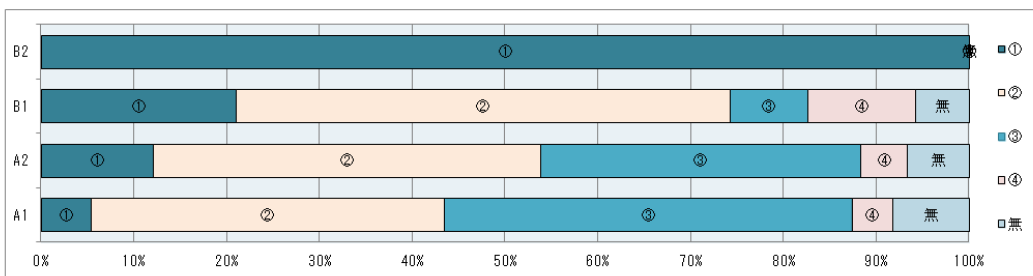
・No. 6 「英語に関する資格・検定試験を受験したことがない理由」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.6 (No.5で③と回答した方のみ) 受験したことがない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい(複数回答可)。

①受験しなかったが、その機会がなかった ②受験したいとは思わなかった(受験する必要性を感じなかった)
③自分の英語力に自信がない ④その他

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	1	0	0	0	0	1
	選択率	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
B1	回答数	40	101	16	22	11	190
	選択率	21.1%	53.2%	8.4%	11.6%	5.8%	100%
A2	回答数	832	2,877	2,380	355	457	6,901
	選択率	12.1%	41.7%	34.5%	5.1%	6.6%	100%
A1	回答数	1,950	13,828	15,954	1,591	2,970	36,293
	選択率	5.4%	38.1%	44.0%	4.4%	8.2%	100%



※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

生徒質問紙 No. 5「高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する試験を受験したことがありますか」との問いに対し、英検（実用英語技能検定）を除くと、資格・検定試験の受験経験は非常に少なく、「英語に関する試験を受験したことはない」（選択肢⑨）と回答した生徒が半数以上（53.5%）に及ぶ。その理由としては、No. 6より「受験したいとは思わなかった（受験する必要性を感じなかった）」（選択肢②）が38.7%、「自分の英語力に自信がない」（選択肢③）が42.2%となっている。

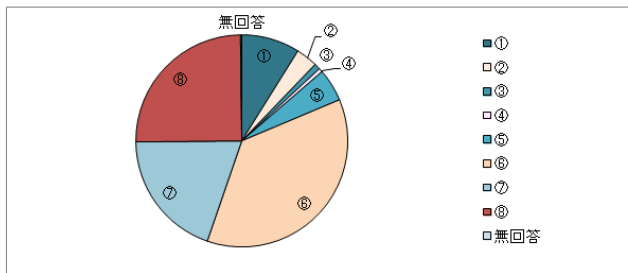
(3) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

No.2 どの程度まで英語を身につけたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ⑥海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ⑦大学入試に対応できる力をつけたい ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	計
回答数	5,848	2,188	575	415	3,289	24,231	12,924	16,490	107	66,067
選択率	8.9%	3.3%	0.9%	0.6%	5.0%	36.7%	19.6%	25.0%	0.2%	100%



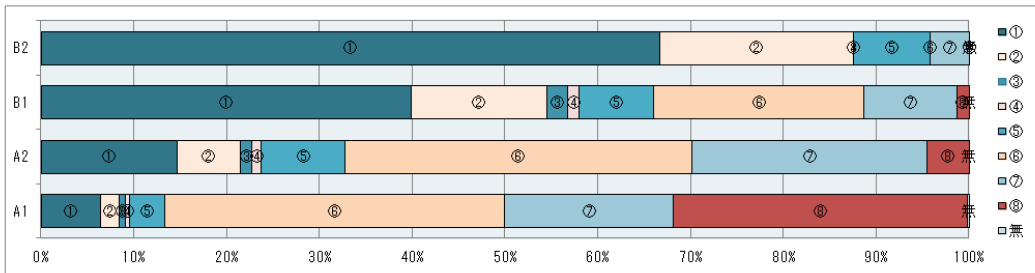
・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.2 どの程度まで英語を身につけたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ⑥海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ⑦大学入試に対応できる力をつけたい ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	計
B2	回答数	16	5	0	0	2	0	1	0	0	24
	選択率	66.7%	20.8%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	100%
B1	回答数	306	112	18	9	61	174	77	9	1	767
	選択率	39.9%	14.6%	2.3%	1.2%	8.0%	22.7%	10.0%	1.2%	0.1%	100%
A2	回答数	2,221	1,034	192	148	1,356	5,683	3,841	662	8	15,145
	選択率	14.7%	6.8%	1.3%	1.0%	9.0%	37.5%	25.4%	4.4%	0.1%	100%
A1	回答数	3,006	949	325	232	1,746	17,352	8,582	14,960	77	47,229
	選択率	6.4%	2.0%	0.7%	0.5%	3.7%	36.7%	18.2%	31.7%	0.2%	100%



※クロス集計については、4 技能のうちリーディングを取り上げている。

生徒質問紙 No. 2 「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」との問いに対しては、A1、A2、B1 の各レベルに属する生徒の数が異なり、上級になるほど人数が少ないために断定はできないが、傾向として、英語力が高い生徒は、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）や、「大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」（選択肢②）といった回答の割合が高い。これは、英語力が高い生徒ほど、「英語を使ってしたいこと」の理想像がより明確であることを示しているものと考えられる。また、英語力が高めの生徒にとって、英語は職業や学問と直結した CALP 的*なものとして認識されているようで、自己実現のために英語の学習を行っているものと推測される。

一方、英語力が A1 又は A2 レベルの生徒にとって、英語は大学受験のツールであり続けており、使用のイメージも、海外旅行や日常会話のレベル、つまり BICS 的*なものにとどまる傾向がある。さらに、A1 レベル（最も多くの生徒が含まれるレベル）では、「特に学校の授業以外での利用を考えていない」（選択肢⑧）と回答した生徒が 31.7% もおり、コミュニケーションの媒体として英語を使用するというイメージが明確ではないか、あるいは英語利用の必然性が感じられない状況にあることがわかる。なお、この選択肢⑧を選んだ生徒の割合は、A2 レベルでは少数（4.4%）であることから、A1 レベルに特徴的な傾向とも考えられる。

* 言語使用には、職業や勉学と直結する CALP (Cognitive Academic Language Proficiency) の側面と、日常生活中心の BICS (Basic Interpersonal Communication Skills) の側面があるとされている。

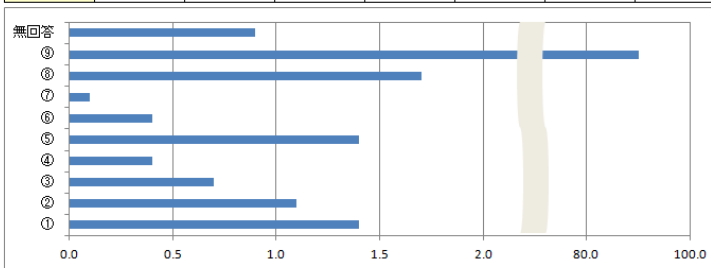
(4)英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。

・No. 3 「英語を使った各種活動の経験」

No.3 高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ①イングリッシュキャンプ ②英語のスピーチ大会（校内での予選等は除く）
 ③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選等は除く） ④英語のディベート大会（校内での予選等は除く）
 ⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）
 ⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ホームステイ（現地の教育機関等で学習した場合を除く）
 ⑨当てはまるものはない

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
回答数	951	764	460	303	921	288	98	1,185	62,253	625	67,848
選択率	1.4%	1.1%	0.7%	0.4%	1.4%	0.4%	0.1%	1.7%	91.8%	0.9%	100%



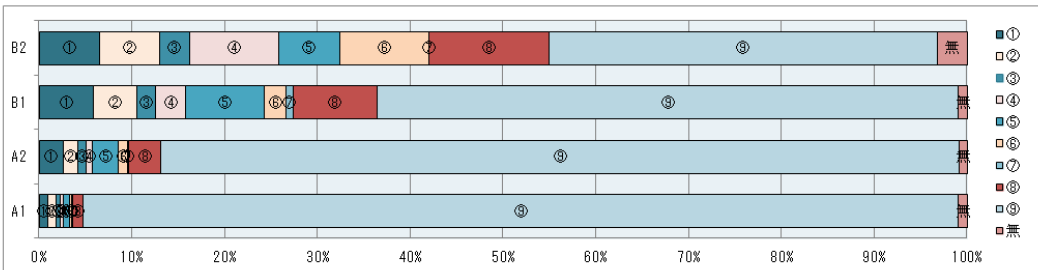
・No. 3 「英語を使った各種体験活動の経験」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.3 高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ①イングリッシュキャンプ ②英語のスピーチ大会（校内での予選等は除く）
 ③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選等は除く） ④英語のディベート大会（校内での予選等は除く）
 ⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）
 ⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ホームステイ（現地の教育機関等で学習した場合を除く）
 ⑨当てはまるものはない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
B2	回答数	2	2	1	3	2	3	0	4	13	1	31
	選択率	6.5%	6.5%	3.2%	9.7%	6.5%	9.7%	0.0%	12.9%	41.9%	3.2%	100%
B1	回答数	53	41	19	29	76	21	7	81	563	8	898
	選択率	5.9%	4.6%	2.1%	3.2%	8.5%	2.3%	0.8%	9.0%	62.7%	0.9%	100%
A2	回答数	415	251	136	92	457	141	34	536	13,711	133	15,906
	選択率	2.6%	1.6%	0.9%	0.6%	2.9%	0.9%	0.2%	3.4%	86.2%	0.8%	100%
A1	回答数	419	416	257	146	353	111	47	512	45,307	432	48,000
	選択率	0.9%	0.9%	0.5%	0.3%	0.7%	0.2%	0.1%	1.1%	94.4%	0.9%	100%



※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

生徒質問紙 No. 3「高校生になってから経験したことがあることは何ですか」との問いに対して、イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会、留学など、体験型の学習を高校生になってから経験したことがない（選択肢⑨）と回答した生徒は91.8%に上る。このことから、「実際に使う」活動を通して英語を学ぶ機会が顕著に少ないことがわかる。

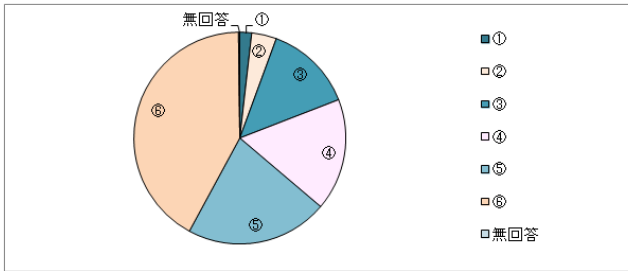
(5) 生徒の自主的な英語学習時間が少ない。

・No. 7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、書く、話すのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
回答数	1,178	2,532	8,904	11,266	14,367	27,684	136	66,067
選択率	1.8%	3.8%	13.5%	17.1%	21.7%	41.9%	0.2%	100%



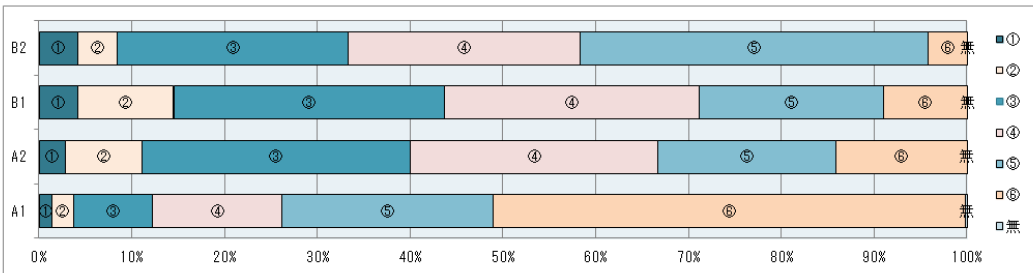
・No. 7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、書く、話すのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
B2	回答数	1	1	6	6	9	1	0	24
	選択率	4.2%	4.2%	25.0%	25.0%	37.5%	4.2%	0.0%	100%
B1	回答数	32	79	224	211	152	69	0	767
	選択率	4.2%	10.3%	29.2%	27.5%	19.8%	9.0%	0.0%	100%
A2	回答数	432	1,239	4,384	4,038	2,915	2,123	14	15,145
	選択率	2.9%	8.2%	28.9%	26.7%	19.2%	14.0%	0.1%	100%
A1	回答数	645	1,104	4,006	6,825	10,721	24,036	92	47,229
	選択率	1.4%	2.3%	8.5%	14.0%	22.7%	50.9%	0.2%	100%



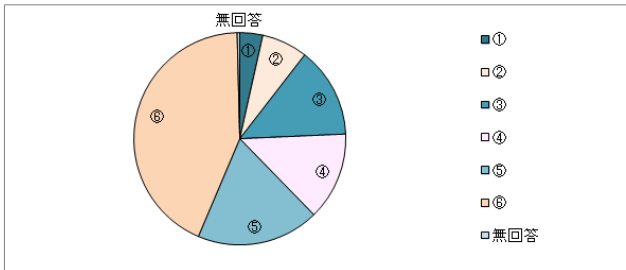
※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

・No. 8 「休日の予習・復習以外の英語学習時間」

No.8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、書く、話すのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
回答数	2,309	4,607	9,106	8,845	12,381	28,534	285	66,067
選択率	3.5%	7.0%	13.8%	13.4%	18.7%	43.2%	0.4%	100%



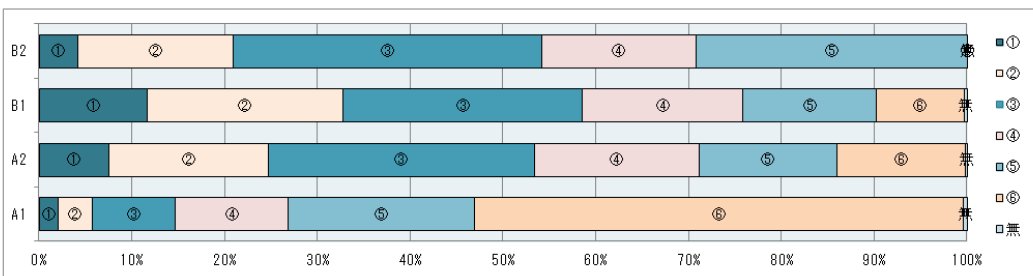
・No. 8 「休日の予習・復習以外の英語学習時間」

クロス集計(生徒質問紙×リーディング)

No.8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、書く、話すのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
B2	回答数	1	4	8	4	7	0	0	24
	選択率	4.2%	16.7%	33.3%	16.7%	29.2%	0.0%	0.0%	100%
B1	回答数	89	162	198	133	110	73	2	767
	選択率	11.6%	21.1%	25.8%	17.3%	14.3%	9.5%	0.3%	100%
A2	回答数	1,129	2,610	4,342	2,685	2,255	2,097	27	15,145
	選択率	7.5%	17.2%	28.7%	17.7%	14.9%	13.8%	0.2%	100%
A1	回答数	979	1,692	4,257	5,727	9,507	24,856	211	47,229
	選択率	2.1%	3.6%	9.0%	12.1%	20.1%	52.6%	0.4%	100%



※クロス集計については、4技能のうちリーディングを取り上げている。

生徒質問紙 No. 7「学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」との問いに対して、「全くしない」（選択肢⑥）と回答したものが41.9%に及んでいる。「30分未満」（選択肢⑤）と合わせると63.6%にも上り、多くの生徒が平日に授業の予習・復習以外に英語に接していない姿が浮かび上がる。この傾向は、A1レベル（最も多くの生徒が含まれるレベル）においてより顕著（特に選択肢⑥）になる。

さらに、No. 8「土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」との問いに対して、「全くしない」（選択肢⑥）という回答が43.2%であり、A1レベルにおいては52.6%も認められた。この回答が、A2、B1レベルにおいてはそれぞれ13.8%と9.5%であることから考えると、「全くしない」という回答が多くなるのはA1レベルに顕著な傾向であると考えられる。なお、選択肢⑤の「30分未満」を含むと、A1レベルに属する生徒の72.7%（全体では61.9%）が、学校が休みの日に授業の予習・復習以外で十分な学習時間を取っていないこともわかる*。

* ライティングの得点が0点の生徒層で見ると、選択肢⑤又は⑥のいずれかを選んだ生徒が、生徒質問紙のNo. 7で78.8%、No. 8で79.9%に上っている。

(6) 概要や要点をとらえる活動はある程度経験しているが、それをもとにして英語で議論したり書いたりする活動はあまり経験していない。

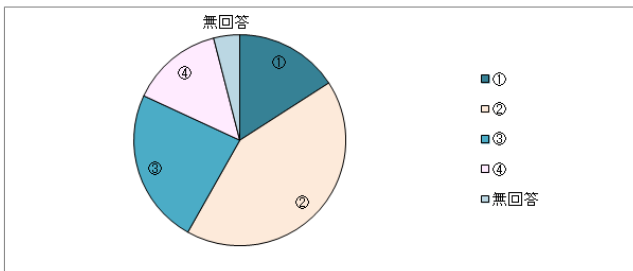
・No. 10-(2) 「リスニングでの概要把握や要点理解」第 2 学年

No.10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて、
（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第 2 学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	10,508	27,952	15,644	9,302	2,661	66,067
選択率	15.9%	42.3%	23.7%	14.1%	4.0%	100%



・No. 10-(2) 「リスニングでの概要把握や要点理解」

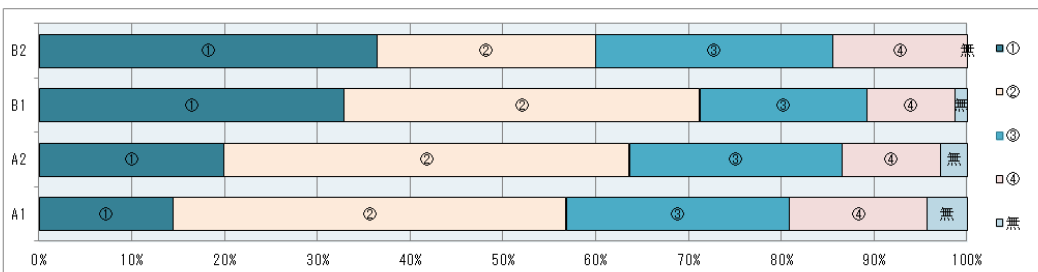
クロス集計(生徒質問紙×リスニング) 第 2 学年

No.10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて、
（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第 2 学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	20	13	14	8	0	55
	選択率	36.4%	23.6%	25.5%	14.5%	0.0%	100%
B1	回答数	252	294	138	73	10	767
	選択率	32.9%	38.3%	18.0%	9.5%	1.3%	100%
A2	回答数	2,603	5,702	2,984	1,389	376	13,054
	選択率	19.9%	43.7%	22.9%	10.6%	2.9%	100%
A1	回答数	7,163	20,863	11,856	7,293	2,114	49,289
	選択率	14.5%	42.3%	24.1%	14.8%	4.3%	100%



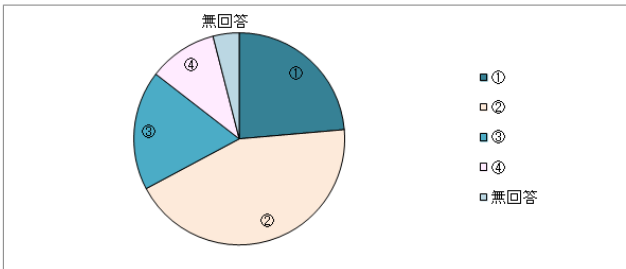
・No. 11-(2) 「リーディングでの概要把握や要点理解」第2学年

No.11 以下の学年の英語の授業では、英語を読んで、
（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていただと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	15,599	28,783	12,065	6,965	2,655	66,067
選択率	23.6%	43.6%	18.3%	10.5%	4.0%	100%



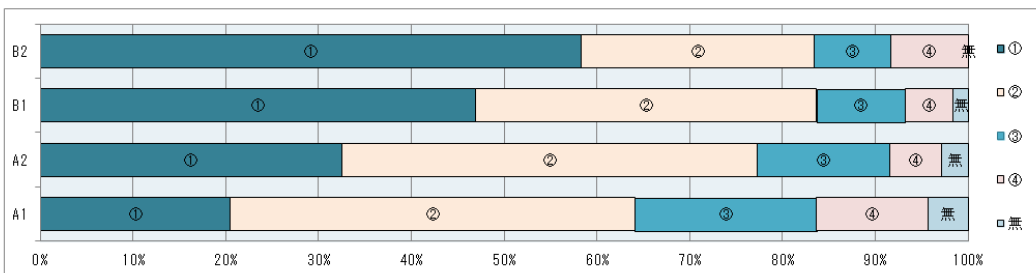
・No. 11-(2) 「リーディングでの概要把握や要点理解」
クロス集計(生徒質問紙×リーディング) 第2学年

No.11 以下の学年の英語の授業では、英語を読んで、
（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていただと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	14	6	2	2	0	24
	選択率	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	100%
B1	回答数	360	282	73	40	12	767
	選択率	46.9%	36.8%	9.5%	5.2%	1.6%	100%
A2	回答数	4,928	6,775	2,173	830	439	15,145
	選択率	32.5%	44.7%	14.3%	5.5%	2.9%	100%
A1	回答数	9,659	20,603	9,280	5,654	2,033	47,229
	選択率	20.5%	43.6%	19.6%	12.0%	4.3%	100%



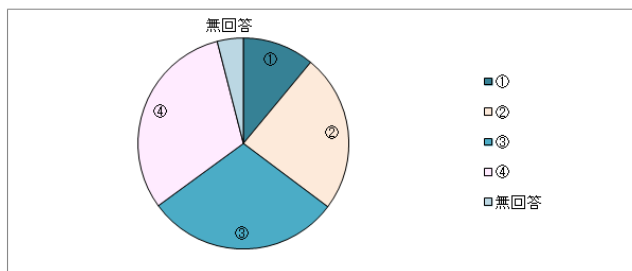
・No. 12-(2)「英語での話合いや意見交換」第2学年

No.12 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	7,293	15,999	19,634	20,492	2,659	66,067
選択率	11.0%	24.2%	29.7%	31.0%	4.0%	100%



・No. 12-(2)「英語での話合いや意見交換」

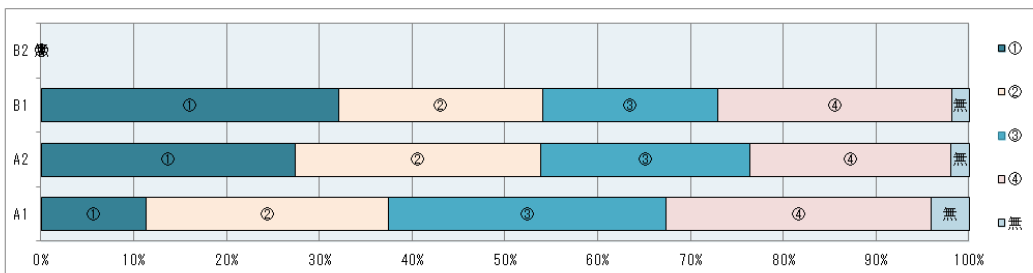
クロス集計(生徒質問紙×スピーキング) 第2学年

No.12 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	0	0	0	0	0	0
	選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
B1	回答数	51	35	30	40	3	159
	選択率	32.1%	22.0%	18.9%	25.2%	1.9%	100%
A2	回答数	396	382	327	312	29	1,446
	選択率	27.4%	26.4%	22.6%	21.6%	2.0%	100%
A1	回答数	1,553	3,581	4,107	3,915	557	13,713
	選択率	11.3%	26.1%	29.9%	28.5%	4.1%	100%



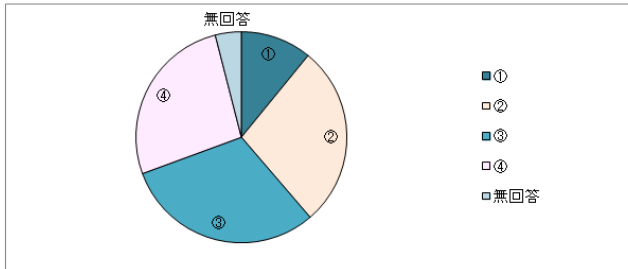
・No. 13-(2) 「英語で書いてまとめる、自分の考えを英語で書く」 第2学年

No.13 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	7,175	18,362	20,311	17,554	2,665	66,067
選択率	10.9%	27.8%	30.7%	26.6%	4.0%	100%



・No. 13-(2) 「英語で書いてまとめる、自分の考えを英語で書く」

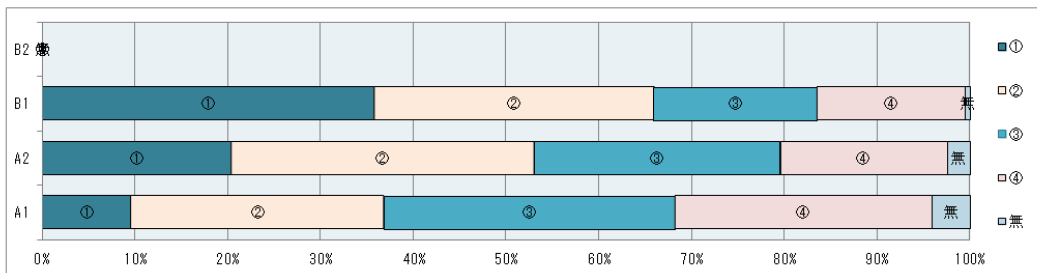
クロス集計(生徒質問紙×ライティング) 第2学年

No.13 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	回答数	0	0	0	0	0	0
	選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
B1	回答数	63	53	31	28	1	176
	選択率	35.8%	30.1%	17.6%	15.9%	0.6%	100%
A2	回答数	1,411	2,259	1,838	1,248	171	6,927
	選択率	20.4%	32.6%	26.5%	18.0%	2.5%	100%
A1	回答数	5,414	15,304	17,639	15,509	2,342	56,208
	選択率	9.6%	27.2%	31.4%	27.6%	4.2%	100%



生徒質問紙 No. 10 「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」及び No. 11 「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」との問いに対して、英文の概要や要点をとらえる活動は、リスニングで 58.2% (選択肢①②)、リーディングで 67.2% (選択肢①②) の生徒が第2学年で経験しており、その割合は (A1～B1 レベルで) 英語力が上がるにつれ

て高くなる傾向が認められる。

一方、No. 12「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか」及び No. 13「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか」との問いに対しては、スピーキングで 35.2%（選択肢①②）、ライティングで 38.7%（選択肢①②）と低めであり、英語で意見交換をしたり自分の考えを書いたりする活動が少ないことがわかる。この低調傾向は、特に A1 レベル（最も多くの生徒が含まれるレベル）に顕著で、全体の結果に影響を与えている。

3.2 学校・教員質問紙調査から

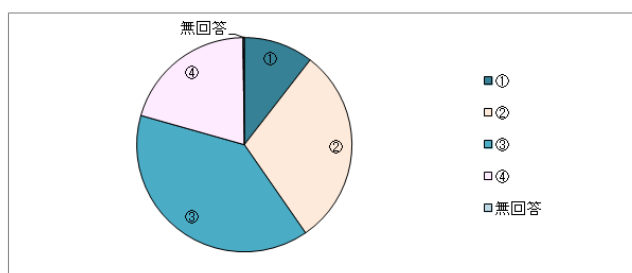
(1)授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組が低調である。

・No.5 「授業以外での国際交流、英語のコミュニケーション能力育成の取組」

No.5 現在第3学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか。

①よく行った ②どちらかといえば、行った ③あまり行っていない ④ほとんど行っていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	48	136	178	93	1	456
選択率	10.5%	29.8%	39.0%	20.4%	0.2%	100%

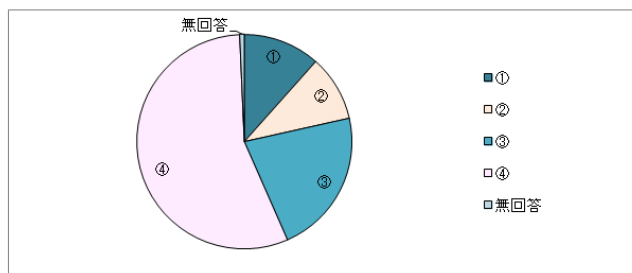


・No.6 「留学生の受け入れ」

No.6 積極的に留学生を受け入れていますか。

①積極的にしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	53	45	100	255	3	456
選択率	11.6%	9.9%	21.9%	55.9%	0.7%	100%

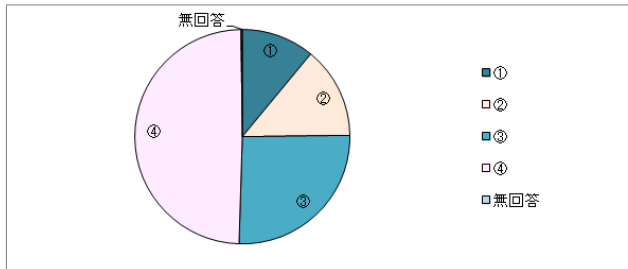


・No.7「留学生の送り出し」

No.7 積極的に生徒を留学させていますか。

①積極的にしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	50	63	117	225	1	456
選択率	11.0%	13.8%	25.7%	49.3%	0.2%	100%



学校質問紙 No. 5「現在第3学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか」との問いに対して、「あまり行っていない」（選択肢③）と「ほとんど行っていない」（選択肢④）の合計は全体の59.4%となり、半数以上の学校で十分な取組が行えていないことがわかる。また、No. 6「積極的に留学生を受け入れていますか」及びNo. 7「積極的に生徒を留学させていますか」の結果より、留学生の受け入れと送り出しはともに不十分な状態であることがわかる。

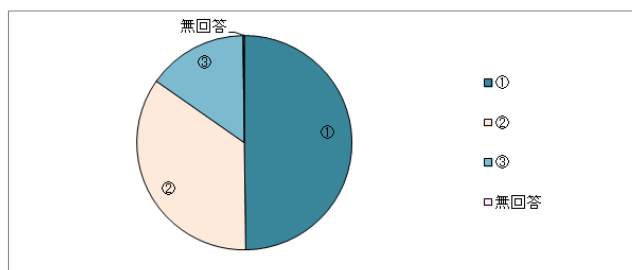
(2)学習到達目標に関する記述文(CAN-DO statements)の設定は進んでいる。

・No. 8 「学習到達目標としての CAN-DO statements 整備」

No.8 生徒の英語力に関して学校が設定する学習到達目標について、能力記述文 (CAN-DO statements) で技能別にリスト化していますか。

①設定している ②今は設定していないが、今後設定する予定である ③設定しておらず、今後も設定する予定がない

選択番号	①	②	③	無回答	計
回答数	227	159	69	1	456
選択率	49.8%	34.9%	15.1%	0.2%	100%



学校質問紙 No. 8 「生徒の英語力に関して学校が設定する学習到達目標について、能力記述文 (CAN-DO statements) で技能別にリスト化していますか」との問いに対する回答から、49.8%の学校では既に技能別の設定が行われており（選択肢①）、34.9%の学校で設定の計画を持っていることがわかる（選択肢②）。今後は、このような能力記述文を、実際の授業指導や学習評価に積極的に生かすことが課題となると考えられる。

(3) 技能の統合を意識した言語活動への取組に関して改善の余地がある。

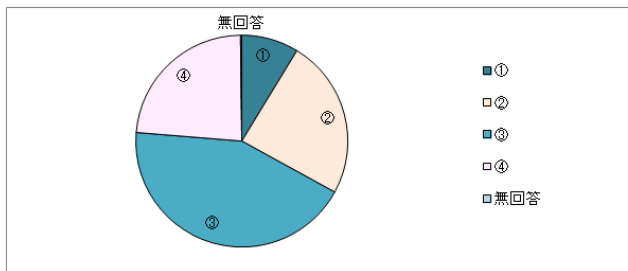
・No. 1-(4) 「英語での話合いや意見交換」

No.1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(4) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	216	606	1,080	587	4	2,493
選択率	8.7%	24.3%	43.3%	23.5%	0.2%	100%



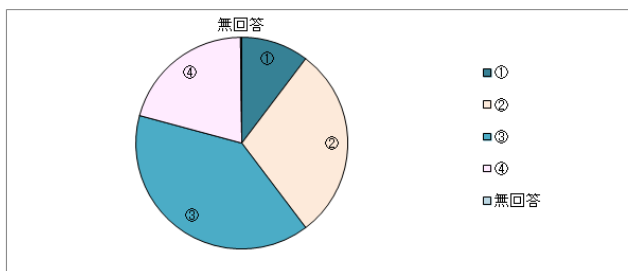
・No. 1-(5) 「書く活動」

No.1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(5) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	258	732	985	514	4	2,493
選択率	10.3%	29.4%	39.5%	20.6%	0.2%	100%



教員質問紙 No. 1-(4) 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか」との問いに対して、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は 33.0%となっている。また、No. 1-(5) 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか」との問いに対して、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は 39.7%となっており、4 技能を統合した活動に関しては、全体の 30~40%程度しか行われていないことがわかる。

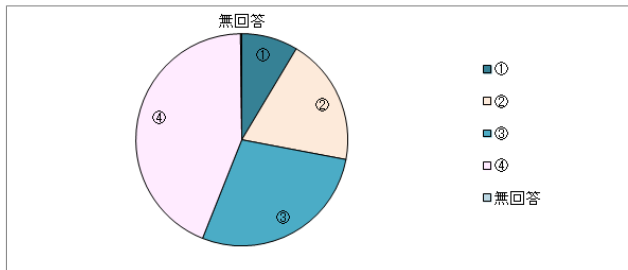
・No. 1-(13) 「スピーチやプレゼンテーション」

No.1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(13) スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	215	483	700	1,091	4	2,493
選択率	8.6%	19.4%	28.1%	43.8%	0.2%	100%



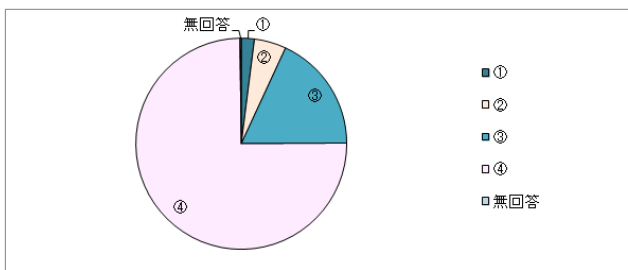
・No. 1-(14) 「ディベートやディスカッション」

No.1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(14) ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	51	122	448	1,867	5	2,493
選択率	2.0%	4.9%	18.0%	74.9%	0.2%	100%



教員質問紙 No. 1-(13) 「スピーチやプレゼンテーションを行っていますか」との問いに対して、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計が28.0%、No. 1-(14) 「ディベートやディスカッションを行っていますか」との問いに対して、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計が6.9%といずれも低く、改善の余地がある。

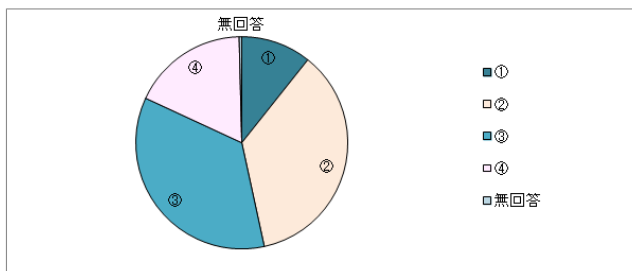
(4) 教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。

・No. 5 「教員の校内外の研修や研究会への参加」

No.5 校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

選択番号	①	②	③	④	無回答	計
回答数	267	895	880	442	9	2,493
選択率	10.7%	35.9%	35.3%	17.7%	0.4%	100%



教員質問紙 No. 5 「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか」との問いに対して、「あまりしていない」（選択肢③）と「ほとんどしていない」（選択肢④）の合計が 53.0%となっており、半数以上の教員が研修などへ参加した成果を日々の教育活動に生かせていないと回答している。これは、研修などへの参加自体が十分にできていない可能性と、その成果を実際の教育活動に生かせていない可能性の両方が含まれているので解釈が難しいが、研修制度に何らかの改善が必要であることは推測できる。

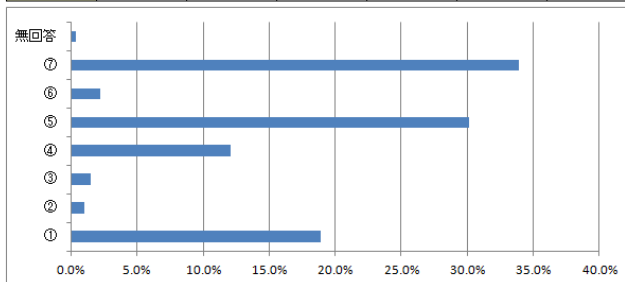
(5) 教員自身が英語力を向上させるための努力を支援していく必要がある。

・No. 6 「外部検定試験の受験経験」

No.6 教員になってから、英語に関する外部検定試験を受験しましたか（複数回答可）。

①英検（実用英語技能検定） ②GTEC ③IELTS ④TOEFL ⑤TOEIC ⑥その他 ⑦受験していない

選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
回答数	606	32	47	386	963	69	1,083	12	3,198
選択率	18.9%	1.0%	1.5%	12.1%	30.1%	2.2%	33.9%	0.4%	100%

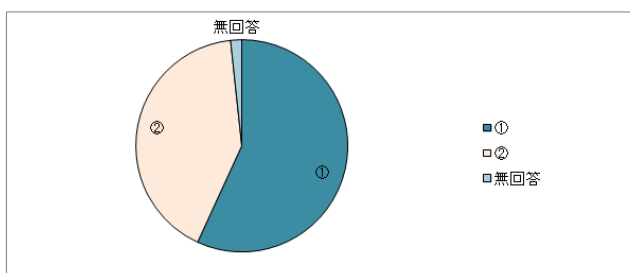


・No. 7 「教員の英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上の取得状況」

No.7 外部検定試験を受験し、英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上のいずれかを取得していますか。

①取得している ②取得していない

選択番号	①	②	無回答	計
回答数	1,417	1,033	43	2,493
選択率	56.8%	41.4%	1.7%	100%



教員質問紙 No. 6 「教員になってから、英語に関する外部検定試験を受験しましたか」との問いに対して、「受験していない」（選択肢⑦）が 33.9%となっている。また、No. 7 「外部検定試験を受験し、英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上のいずれかを取得していますか」との問いに対して、「取得していない」（選択肢②）が 41.4%となっている。

4. 改善のポイント

4.1 生徒質問紙調査から

(1) 英語の学習が好きではないとの回答が半数を上回る。

英語の授業を知識蓄積型や技能習得型にとどめることなく、知識・技能を活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成するよう変えていく必要がある。その際、活動中心型の授業や、英語を通して特定の内容を学ぶなどのやり方も導入し、使用目的・文脈の明確化と学習者の動機付けを図ることも重要であろう。ただし、A1 レベルでは上記のようなアプローチを全面的に導入するのは困難なため、ICT を活用して視覚面から理解の手助けを図るなどして、授業の一部で導入していく工夫が求められる。

(2) 資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒が少ない。

資格・検定試験については 4 技能の測定ができるテストも多いことから、今後、ますます利用場面が増えるものと考えられる。この流れを受け、学校で集団受験の場を設定することなどを検討する必要がある。その際、生徒のレベルやニーズに合わない資格・検定試験は採用するべきではないので、各テストの目的、問題形式、英文内容、測定範囲などを各学校でよく検討する必要がある。加えて、資格・検定試験の受験準備そのものが英語学習の目的とならないよう、コミュニケーション能力の向上につながる授業展開が求められる。なお、資格・検定試験を受験したことがない理由として、「自分の英語力に自信がない」と回答した割合が高くなっているが、この対応策としては、資格・検定試験の診断的側面（試験結果から有益な情報を得て学習法を改善していくなど）を強調することも一案として考えられる。

(3) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

今回の調査で最も人数の多い A1 及び A2 レベルの生徒に対しては、大学などの受験を目的として英語を学ぶのではなく、英語を利用すればどのような将来像が描けるのか、あるいは、これからの社会において英語の必要性はどれほど高いのか、ということ認識させていく指導が求められる。その際、生徒たちのロール・モデルになるような実例を示すことも重要である。

(4) 英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。

英語を使った各種活動の経験は、学習動機を高め、英語学習の目標や使用場面を明確化させることに貢献すると考えられる。よって、授業において英語を使う活動を充実させるとともに、地元の小・中学校、他の高等学校、大学、企業、そして外国の教育機関などとも連携し、学校の外においても英語を実際に使って行う活動を導入していくことが強く求められる。

(5) 生徒の自主的な英語学習時間が少ない。

A1 レベルの生徒に対しては、今後、学習者指導*などを通して、学習時間確保の重要性を十分に浸透させる必要がある。また、授業での活動を前提とした事前課題 (assignment) を明確に提示するとともに、自主的な英語学習の時間を増やしていくための指導 (例：多読、多聴、ジャーナル・ライティングなどの指導) を行うことも必要となろう。なお、課題内容が従来型のもの (例：教科書本文の和訳や単語の意味調べ、ワークブックを使った自習など) であれば、英語学習に関する従来のイメージを固定化させ、逆効果となることも想定されるため、その内容については慎重な検討が必要となろう。

* 学習者指導：言語学習の特徴や方法について学習者の気付きを促し、彼らの目標設定力や計画性 (メタ認知能力) を養っていく指導方法。

(6) 概要や要点をとらえる活動はある程度経験しているが、それをもとにして英語で議論したり書いたりする活動はあまり経験していない。

4 技能を総合的に使用する力を育成するためには、リスニングやリーディングという受容技能だけでなく、スピーキングやライティングといった産出技能についても、十分に指導を行う必要がある。その際、それぞれの技能を個別に扱うのではなく、「産出」することを前提とした「受容」、「受容」したら「産出」といった技能の統合化を念頭に置いて言語活動をデザインする必要がある。なお、英語力が高い層だけでなく、A1 レベルにおいても、4 技能の統合を念頭に置いた活動を段階的に導入し、徐々に慣れさせていくことも重要である。

4.2 学校・教員質問紙調査から

(1) 授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組が低調である。

授業外での国際交流の取組は、「英語を使う」という観点や「英語を使う」文脈を生徒に理解させるために有用なため、積極的に取り入れていく必要がある。また、「英語を使う」ことが日常的なものとなるよう、留学生の受け入れ・送り出しを積極的に進めていくことも大切である。

(2) 学習到達目標に関する記述文(CAN-DO statements)の設定は進んでいる。

設定された記述文(CAN-DO statements)の内容を踏まえて指導案や評価方法を決め、成果を検証していけるようにPDCAサイクルに組み込んでいくことが重要である。

(3) 技能の統合を意識した言語活動への取組に関して改善の余地がある。

各学校では、今後ますます、CAN-DO statementsに基づいた4技能を統合した授業を考案し、実践していく必要がある。

(4) 教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。

教育委員会、学校の管理職、教員の各レベルにおいて、研修に積極的に参加できる体制整備と、その成果を共有する仕組み作りが大切である。

(5) 教員自身が英語力を向上させるための努力を支援していく必要がある。

各教育委員会は、英語教員の英語力を向上させるための研修を企画するなど、教員が英語を学習する時間が確保できるように配慮すべきである。また、英語に関する資格・検定試験の定期的な受験を推奨するなどの施策の導入も望まれる。

5. まとめ

今回は公立学校での調査データをもとに分析を行った。この分析を通して、一般的な生徒が、英語学習に対して良いイメージを描けていない現状が浮かび上がってきた。また、彼らの多くは、将来、英語をどのように利用していくかについての目標像を形成できておらず、その利用体験を与えるはずの各種活動も経験していない状況において、英語学習に興味を持たず、学習に十分な時間を割けていないという姿も浮き彫りになった。

一方、彼らの英語学習を支える学校・教員は、授業内での技能統合を意識した言語活動の展開や、授業外での国際交流・コミュニケーション能力育成のための取組において、さらなる努力が必要な状況にあることがわかった。加えて、教員研修の成果を生かす工夫や教員の英語力向上の取組を支援する体制作りにも、改善が必要であることが明らかになった。

今後、これらの問題の解決に向けて、国、地方自治体、教育委員会、学校、教員、生徒の様々なレベルで効果的な取組を加速化していかなければならない。

5章 学校の取組紹介

- A 高等学校「独自教材と共通の評価方法を用いて4技能を総合的に伸ばす」・・・122
- B 高等学校「コミュニケーション能力の育成に特化した授業で4技能をバランスよく伸ばす」・・・128
- C 高等学校「CAN-DO リストに基づいた4技能統合型授業を推進」・・・134
- D 高等学校「4技能統合型授業の実践とともに生徒のスピーキング力の向上を目指す」・・・142
- E 高等学校「独自の教材とワークシート、活発な姉妹公交流により総合的なコミュニケーション能力の向上を図る」・・・146
- F 高等学校「思考力・表現力を伸ばす指導でコミュニケーション・ツールとしての英語力を鍛える」・・・152

取組紹介① A 高等学校

独自教材と共通の評価方法を用いて 4技能を総合的に伸ばす

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 27 年 2 月調査日時点）

設立・形態	大正 8（1919）年設立 全日制／普通科／共学
学級数・生徒数	12 学級（438 人）／第 1 学年… 4 学級（149 人） 第 2 学年… 4 学級（140 人） 第 3 学年… 4 学級（149 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT が 1 人。1・2 年次は各クラス週 1 回、3 年次は各クラス 2 週間に 1 回。ただし、2・3 年次の進学クラス（各学年 1 クラス）は週 2 回
取組の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・独自教材の作成…生徒の英語力に合った興味・関心を喚起する教材の利用と課題の設定を工夫 ・活用中心の授業…ペア・ワークやプレゼンテーションなどを多く取り入れ、4 技能をバランスよく習得 ・共通の評価指標…教員共通の評価スケールを設けてライティングを評価

◎試験結果、質問紙における学校の特徴

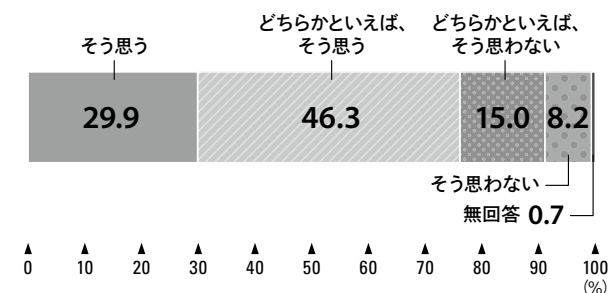
・第 3 学年の平均スコア（点）

	Reading	Listening	Writing	Speaking
A 高等学校	113.2	108.2	16.1	3.0
全国平均（公立学校）	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

・生徒質問紙結果

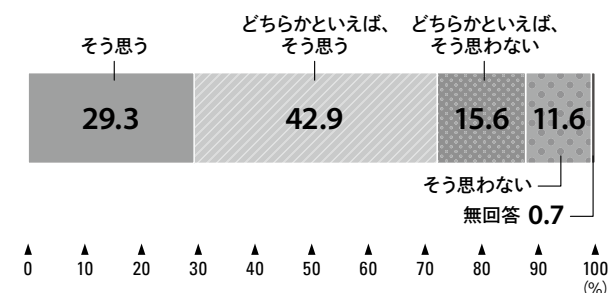
No. 12 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合った意見の交換をしたりしていたと思いますか。

・第 3 学年



No. 14 以下の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

・第 3 学年



スコアは全国平均をやや下回るも、4技能を使った言語活動が多い

4 技能のスコアは全国平均よりやや低く、生徒質問紙 No. 1 「英語の学習は好きか」において「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合も全国平均を 10% ほど下回っている。また、生徒質問紙 No. 2 「英語を身に付けたい程度」において「授業以外で英語を使うことを考えていない」生徒も約 40% と高い。一方で、授業内での言語活動の実施率は 4 技能のいずれについても高い。特に、生徒質問紙 No. 14 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたか」では、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」の回答率は学年が上がるにつれて高まり、第 3 学年では 70% 強と全国平均を大きく上回っている。

また、学校質問紙 No. 2 「他校や外部の研修機関など、学校外での研修への教員の積極的な参加」、No. 3 「言語活動に重点を置いた指導計画の作成」、No. 4 「英語科の指導目標やその達成に向けた方策について、全英語科教員の間での共有や取組」なども「よくしている」と回答しており、英語科の体制作りもうまく行われている。

◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

1. 英語を使う素地をつくる「スモール・カンバセーション」

A高等学校は、数年前まで生徒指導上の困難を抱えていた。最寄り駅が遠く、遠距離通学者はバスや自転車の利用が前提という立地条件の厳しさもあり、入学者選抜で定員割れとなる年も少なくない。自分の英語力に自信を持ってない生徒が多い中、平成25年度に文部科学省の「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組」事業における拠点校の研究指定を受けたことを契機に、英語によるコミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。

4技能を向上させる取組に際して重視しているのが、生徒が気軽に英語を使える環境づくりである。その素地として、3学年共通で「スモール・カンバセーション」に取り組んでいる。英語の授業では毎時間、冒頭の10分間を使い、前後左右の生徒同士でペアとなり、初歩的な英語によるQ&A形式の会話を行う。教員が示した3～4の質問事項について、1ペア1分間程度の会話を、相手を変えて3～4回実施する。




Q&Aのパターンをいくつか提示して使わせるため、会話は単語を入れ替えるだけで成立するようになっている。会話の型をできるだけたくさん使わせることで、口頭での英語表現に慣れ親しませることを意図している。会話のテーマは、1年次前半までは趣味や誕生日、好きな教科などの個人的な話題、1年次後半からは教科書の内容に関わる質問を盛り込み、授業内容の理解や定着を促している。「スモール・カンバセーション」では、短時間のペア・ワークをできるだけ多く実施するようにしている。これは、1回の時間を長く取り過ぎてだらけた雰囲気生まれることを避け、頻繁にペアを変えることで教室内の緊張感を保ち続けるためである。

2. 英語での授業を徹底し、グループ単位の「スモール・プレゼンテーション」で3技能を同時に鍛える

授業は、教科書に基づいて教員が独自に作成したワークシートを中心に進めている。授業は、全単元ともほぼ共通に以下の流れに沿って行う。

- ①導入 テーマへの興味を喚起するために、本文の内容に関する課題に取り組ませる。
(例) 単元の話題：片腕を失ったサーファー
課題内容：マリンスポーツの写真を示して英語で紹介した後、自分がしたいスポーツとその理由などを空所補充形式で完成させ、基本的な英文の型を身に付けさせる。
- ②概要把握 本文の音声をCDで聞き、いくつかの設問によって概要が把握できたかどうかを確認した上で本文のリーディングに入る。できるだけ生徒自身の力で情報を読み取らせたいというねらいから、この間、教員は内容に関する解説を一切しない。
- ③構造的な内容理解 グラフィック・オーガナイザーという手法で本文の内容を図式化

図1 授業で使うワークシート例

★ Step 5 [Reading] Graphic Organizer			
Fill in the blanks below!			
Year	Age	Bethany	Family/Friend/People
	5	She started () She won () in Oahu. ↓ () She wanted to be a () ↓ She headed for the beach almost ().	 Her parents () her with her ().
		She met () ↓ They enjoyed () together.	
	13	A () attacked her and bit her () arm. She started to think about (). One () later, she started ().	 Her family and friends () her.
2004		() later, she won () in a national competition.	People of the world were ().

し (129ページ図1)、より構造的に本文の内容を理解させる。

④**ゴール・アクティビティ** 本文の内容に関わるQ & Aや空所補充、スラッシュ・リーディングなどを行い、最後に単元の総括となる課題(ゴール・アクティビティ)を与え、長めの英作文や発表などに取り組ませる。

⑤**学習の振り返り** 単元終了後に、フィードバック・シート(図2)によって、各自が学習の振り返りを行う。

授業はすべて英語で進められる。フィードバック・シート以外はワークシートにも日本語は一切なく、単語の説明も写真やイラストを使って行うなど徹底している。その結果、生徒は、日本語を介することなく、英語を英語のまま理解することに慣れていくようになる。

また、グループ単位でのスモール・プレゼンテーションも多い。前述のサーファーが話題の単元では、ゴール・アクティビティ

として、「もし自分が片腕を失ったらできなくなることは何か、それでもあきらめたくないことは何か」について英文を書き、それを6人1組のグループで発表した。聞いている生徒もその発表内容についてメモをとることで、「話す・聞く・書く」の3技能を同時に鍛える活動になっている。

さらに、生徒に英語を使う必然性を意識させる活動も取り入れている。3年次の授業では、「観光ガイドに書かれた情報を的確に理解する」という活動目標の下、少人数グループでそれぞれ異なる観光名所、ホテル、レストランなどの英文ガイドを読み、ガイドに書かれた情報を理解しながら、内容に関する英文のクイズを作って、そのクイズで他のグループとQ & Aを行う活動をしている。このように生活に密着した教材を使うことで、自分たちの人生と英語は無関係ではなく、高校卒業後も学び続ける必要があるという意識を養うように心がけている。

3. 共通の評価項目で、スピーキング、リスニング、ライティングを評価

スピーキング及びリスニングの評価は、学期に1~2回カンパセーションテストとインタビューテストで行う。前者はペアで行う会話のテストで、無作為にペアを1組ずつ呼び、その場でテーマを書いたカードを示して、Q & A形式のコミュニケーションを1分間程度行わせる。後者は生徒と教員が1対1で行う会話のテストで、教科書の内容に関する質問や、生徒自身の考えを問う質問をする。生徒はテストまで何を問われるかわからないが、内容は授業で行ってきたペア・ワークの応用であり、授業にしっかり取り組んでいれば難しい質問ではない。ライティングの評価は、定期考査にパラグラフ・ライティングを出題して行う。問題には、「理由を書くこと」、「○○と□□について述べられていること」などの条件を示し、各問題において何が求められているのかを理解させるようにしている。

スピーキング、ライティングのいずれにおいても共通の評価項目を作り、教員間で評価結果に差が

図2 フィードバック・シート

Feedback Sheet							
Attitude(関心・意欲・態度)							
	項目	S	A	B	C		
1	先生の問い掛けや話にしっかり反応できた(授業全体)						
2	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加できた(授業全体)						
3	Africaの状況を理解できるように努めた(STEP 1)						
4	Eco-friendly lifeについて考えることができた(STEP 11-1)						
Reading(読む)							
5	初見読みで内容を大まかに理解できた(STEP 4)						
6	本文の大切な情報を的確に把握できた(STEP 5)						
7	本文の内容に関する質問に答えることができた(STEP 7)						
Listening(聞く)							
8	事前質問の答えを聞き取ることができた(STEP 3-1)						
9	Key wordsを的確に聞き取ることができた(STEP 3-2)						
10	発表を聞き、必要な情報を得ることができた(STEP 11-3)						
Speaking(話す)							
11	著名人の情報を原稿なしで伝えることができた(STEP 10-3)						
12	Eco-friendly lifeに関する情報を伝えることができた(STEP 11-2)						
Writing(書く)							
13	Maathaiさんについて簡単な英語にまとめることができた (STEP 10-1)						
14	著名人の情報を簡単な英語で書くことができた(STEP 10-2)						
Knowledge(知識・理解)							
15	平和に貢献した人々のことを理解できた(STEP 2)						
16	Eco-friendly spiritに関する語彙を伸ばすことができた(STEP 6)						
17	本文の音読が正しくスムーズにできた(STEP 8& 9)						
S(しっかりできた)3点		A(概ねできた)2点		B(あまりできなかった)1点		C(できなかった)0点	
My score <input type="text"/> / 51点							

図3 ライティングの評価方法

Writing問題の出題及び評価方法

評価項目	評価の着眼点	採点基準	評価点(案)
Information	求められた情報を的確に伝えているか。	S...情報90%～ A...情報60～89% B...情報25～59% C...情報0～24%	S...3(5) A...2(3～4) B...1(2) C...0
構成 (Content)	接続詞や副詞句などを使って、まとまりのある文章(原因と結果・判断と根拠・時系列や手順等)になっているか。	S...適切な接続詞や副詞の使用がされている。 A...接続詞等の使用にやや問題はあがあるが、全体としてまとまっている。 B...文章や単語の羅列のみで、ややまとまりに欠ける。 C...単語の羅列だけ、もしくは全体の内容が意味不明。	S...3(5) A...2(3～4) B...1(2) C...0
Expression or Fluency	・求められる表現を使用しているか。 ・日本語や意味の通らない語を使用していないか。 ・performanceにおいて、英語らしい音声声を維持しているか。	S...概ね全ての文が正しい表現で、必要な表現の使用有。(英語らしい音声) A...正しい英文は全体の半分程度であるが、使用単語は適切。(概ね発音に問題なし) B...多くの文に誤りがあるが、単語が適切。(誤った発音がやや多い) C...単なる単語の羅列(日本語が頻繁に入る)	S...3(5) A...2(3～4) B...1(2) C...0
Creativity	・気の利いた表現を使用しているか。 ・ユニークな考えを含んでいるか。 ・performanceにおいて、聞き手に伝えようとする姿勢を維持しているか。	S...高度な表現を概ね正しく使用、もしくはユニークな情報を含んでいる。(gestureを使うなど積極的な姿勢) A...高度な表現の使用、もしくはユニークな情報を含んでいるが、気になる誤りも見られる。(時折顔を聞き手に向けるなどの姿勢有) B...簡単な表現に終始し、originalityに欠ける。(終始うつむきながらの発表) C...工夫なし。(不自然な長い間)	S...3(5) A...2(3～4) B...1(2) C...0

*「△文で」「▽語で」⇒ 求められた情報をわかりやすく的確に書く(話す)
*問題作成時に評価項目と採点基準を決める ⇒ 小問の配点が確定

図4 Can-Do statements

英語科 Can-Do statements 3年生

【本校の英語学習に誠実に取り組むと、卒業時には以下で示していることができるようになります。】

観点	学習到達目標
外国語表現の能力	【音声】 (Speaking) ◇教科書の単元テーマに関して、感想・意見とその理由を5文以上で述べることができる。 ◇他者の考えに対して、賛否の意思表示とその根拠を英語で伝えることができる。 ◇状況に応じて適切なアドバイスや提案を英語で伝えることができる。
	【文字】 (Writing) ◇教科書で扱う単元テーマについて、80語程度の要約文を英語で書くことができる。 ◇ある程度身近なテーマに対して、比較的平易な英語を用いて基本情報・自分の考え・根拠を10文以上の英文で書くことができる。
外国語理解の能力	【音声】 (Listening) ◇15～20文もしくは100～150語程度の論説文や会話文を聞いて、その主題(話題)や根拠(状況)などの中核的な情報を正しく聞き取ることができる。
	【文字】 (Reading) ◇平易に書かれた説明文・物語・随筆・評論文で、論旨が明確な250～400語程度の英文を5分程度の時間で読み、その趣旨と根拠など、主題文と支持文の区別をして必要情報を的確に把握することができる。
インタラクションの能力 (Interaction)	◇身近なテーマについて、5～6人のグループでそれぞれが自説を展開し、他の意見に賛成や反対を表明できる。

出ないようにしている。例えば、ライティングは、Information、Content、Expression or Fluency、Creativityの4観点で、それぞれ4段階の評価を行う（131ページ図3）。Creativityは、「気の利いた表現を使用している」、「ユニークな考えを含んでいる」、「聞き手に伝えようとする姿勢を維持している」など、生徒のチャレンジする姿勢を評価する項目になっている（今後、InformationはMessage valueに、ContentはOrganizerに変更予定）。

スピーキング、ライティングの評価では、必ずしも文法的な正確さを重視していない。多少の誤りがあっても、文の形で説明しようとしている、意味の近い単語を使おうとしているなど、生徒の努力をきちんと評価することで、間違えてもいいから話そう、書こうという意欲を持続させようとしている。その結果、最近ではライティングの答案を白紙で提出する生徒が少ない。また、英語科の教員との日常的な会話で英語を使う生徒が増えている。話したり書いたりすることについて前向きに評価される経験が、英語で表現しようとする意欲を引き出していると言える。

教室からの声

生徒は言語活動主体の授業に対して好印象を抱いており、「英語での会話が楽しいので、その時間をもっと増やしてほしい」、「中学時代よりも英語が使えるようになった気がする」といった声が寄せられている。また、英語を話すことに対する抵抗感もなくなりつつあり、英語科の教員の顔を見るたびに、「Good morning!」、「Catch a cold?」などと気軽に英語で話しかけてくる生徒が少なくない。

◎授業以外の取組

1. 教員間の目線合わせを徹底、校外視察にも積極的に参加

同校の強みは、英語科の教員が英語によるコミュニケーション能力の向上という目標を共有し、足並みをそろえて指導に当たっている点にある。教材、授業の進め方、評価方法、CAN-DO statements（131ページ図4）などを共有し、全学年が同じ目線に立った指導を心がけている。同校の英語科で中心となる50代の教員以外は、赴任して間もない若手教員が多い。ベテラン教員のけん引力に加え、新しい取組に抵抗感がない若手教員の柔軟性やフットワークの軽さが、教員集団に活気と結束をもたらしている。

また、指導力向上のための研修にも積極的に取り組んでいる。県内の高校で公開授業があれば数人を派遣して視察し、県外の先進校まで赴くことも少なくない。教材や授業の内容については、アドバイザーである地元国立大学の研究者から意見を聞き、取組のブラッシュアップにつなげている。

2. スピーチコンテストへの出場、台湾からの修学旅行生の受入れ

平成25年度には、同校から初めて、県主催の英語スピーチコンテストの県大会に進出する生徒が出た。その生徒は前年度の大会では地区大会で敗退したため、その悔しさをばねに25年度も再び挑戦したところ、地区大会での入賞を果たして県大会に出場した。他にもコンテストに出場する生徒が出ており、継続的な取組になりつつある。

26年度には、初めて台湾から修学旅行生を受け入れた。一緒に授業を受けたり、部活動に参加したりする中で、生徒が台湾の高校生に英語で懸命に話しかけている姿が見られた。中には、台湾の生徒と友人関係を築き、現在もSNSなどを利用して英語で交流している生徒もいる。これらの経験を通して、生徒は英語を学ぶ必然性や英語で話すことの面白さを実感できたようである。26年度は県からの打診を受ける形で実現したものだったが、今後は可能な限り、継続的に海外の生徒の受入れを進めていく意向だという。

